

# 「ゆば」工場視察

## 台湾メディア関係者 県産食材の安全理解

東京電力福島第一原発事故から4年を経て、本県を含む一部地域を対象に食品輸入を規制している香港、台湾のメディア関係者らが25日、食品製造現場などの視察のため本県を訪れた。日本貿易振興機構(シエトロ)の招請事業で、農産物や加工品の取材を通じて、日本の食文化とともに日本産食材の安全性を母国に発信してもらおうのが狙い。一行のうち、台湾のグループは太子町の「ゆばんや」ゆば工場などを視察した。



今回来日したのは香川県や福岡、栃木を含む者8人は、同町袋田の「台湾のメディア関係者」7県を訪問する。県内温泉施設「関所の湯」関係者と食品輸入業者ら7人は輸出に関心のある秋そばといった地産品の見学や試食を行った。大洗町の月の井酒造店や、ひたちなか市の環境放射線監視センターも訪れた。受け入れ業者は、いずれも原料や加工品の放射線測定を数密に行っている現状を説明し、食品の安全性をアピールした。

ゆばの製造工程を見学する台湾のメディア関係者ら。太子町袋田

の劉致堯さんは「ゆばんや」は食べた

ことはあるが、作り方を初めて知った。台湾人は日本の食材が大好きで、安全安心を信じている」と話した。25日は香港のグループも石岡酒造(石岡市)や柴沼醤油醸造(土浦市)などを視察した。(松下倫)

3/26 常陽新聞

## 浦小町の館でそば堪能 香港のメディア関係者ら



常陸秋そばを味わう香港のメディア関係者ら。土浦市小野の「小町の館」

日本貿易振興機構(シエトロ)に招かれた香港のメディア関係者らが25日、土浦市小野の「小町の館」を訪れた。常陸秋そばを味わった。香港の写真家やブロガーら5人で、日本食の魅力や農林水産物の安全性などを発信してもらおうのが狙い。一行は香港と台湾のメディアや食品業者で23日から27日の間、県内のほか栃木、千葉県など計7県をめぐる。25日は香港の関係者が小町の館を訪れ、土浦市職員が市の特徴や施設について説明。1985年に県の奨励品種に採用された常陸秋そばの産地(新治地区)であることなどを紹介した。ブロガーらは「おいしい」と舌鼓を打ちソバの太さがそれぞれ違

うのはなぜかと質問。市職員は「小町の館にはソバ工房があり、そこで手打ちソバを作っている」などと答えていた。

この日はほかに、市内の柴沼醤油醸造や、石岡市の石岡酒造、かすみがうら市のサツマイモ卸・加工会社、ポテトかいつかを訪れた。(谷島英里子)